平成30年度

活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター

熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座

もくじ

1 はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構理事長あいさつ …… 1
2. 地域医療支援センター長/
   地域医療・総合診療実践学寄附講座特任教授あいさつ …… 2
3. スタッフ一覧 …… 3

2 熊本県地域医療支援機構

（熊本大学医学部附属病院　地域医療支援センター）

1. 活動概要 …… 4
2. 年間活動実績 …… 4
3. 活動報告
   - I. 県内における医師不足の状況などの把握・分析 …… 5
   - II. 医師不足医療機関の支援 …… 7
   - III. 医師が循環して勤務できるシステムの構築 …… 7
   - IV. 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師の
     キャリア形成支援 …… 9
   - V. 医師に関する求人・求職などの情報発信と相談対応 …… 11
   - VI. 県内医療関係機関との協力関係の構築 …… 15
   - VII. 熊本県地域医療支援機構講演会 …… 17
   - VIII. 女性医師キャリア支援 …… 19
4. そのほか …… 33

3 地域医療・総合診療実践学寄附講座

1. 活動概要 …… 34
2. 年間活動実績 …… 34
3. 活動報告
   - I. 地域医療支援（診療支援） …… 35
   - II. 調査・研究 …… 35
   - III. 教育活動 …… 36
     - ● 卒前教育（カリキュラム内教育） …… 36
     - ● 卒後教育（初期臨床研修・専門医研修） …… 43
   - IV. 指導医養成 …… 48
   - V. 講演会 …… 49

4 玉名教育拠点

1. 活動概要 …… 51
2. 年間活動実績 …… 51
3. 活動報告
   - I. 教育活動 …… 52
   - II. 診療 …… 54
   - III. 年間診療報告 …… 55
   - IV. 玉名教育拠点セミナー …… 55

5 熊本県医師修学資金貸与制度

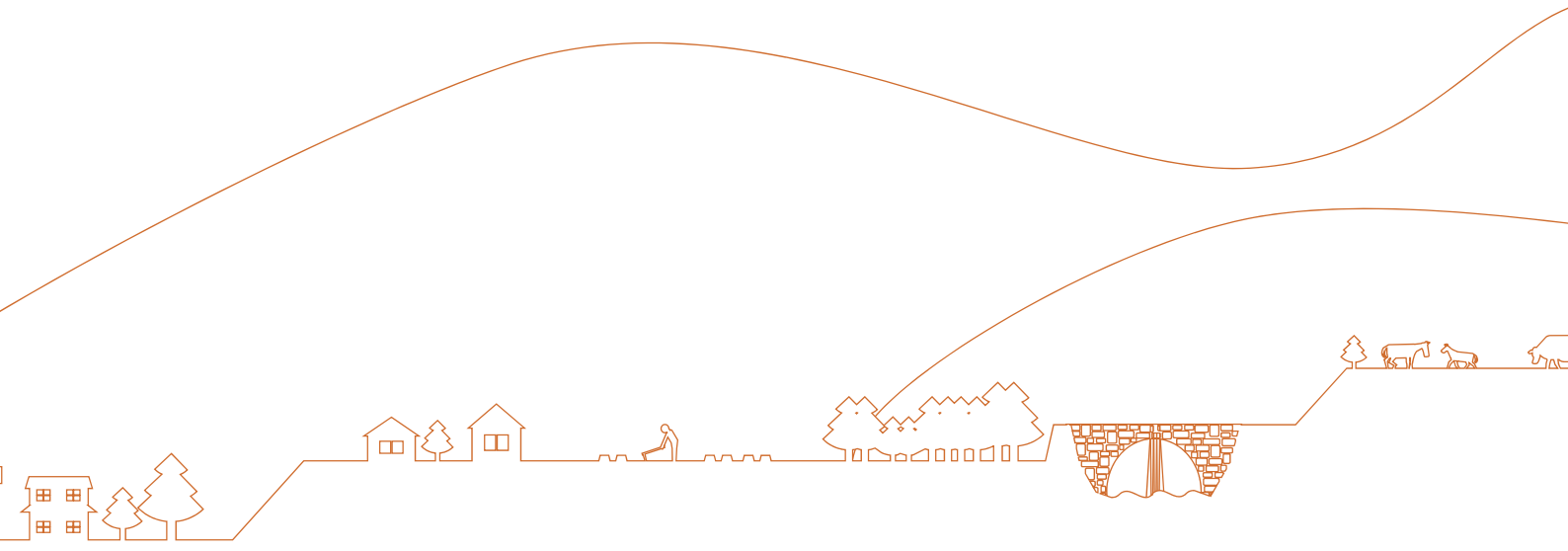
1. 地域医療ゼミ
   - I. 概要 …… 57
   - II. 活動報告 …… 57
2. 平成30年度夏季学生地域医療特別実習
   - I. 概要 …… 60
   - II. 実習の大まかな流れ …… 60
   - III. 3日間の日程 …… 61
3. 平成30年度卒業生 …… 62

6 業績

1. 熊本県地域医療支援機構 …… 67
2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座 …… 69

7 おわりに

1. 教員から …… 73
2. 事務から …… 76
3. あとがき …… 78



1 はじめに

1. 熊本県地域医療支援機構　理事長あいさつ

熊本県地域医療支援機構　理事長
熊本大学医学部附属病院　病院長

谷　原　秀　信

皆様方には、平素より熊本県地域医療支援機構ならびに地域医療・総合診療実践学寄附講座の取り組みに、多大なご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。この度、平成30年度の活動報告書を作成致しましたので、ご一読いただければ幸いに存じます。

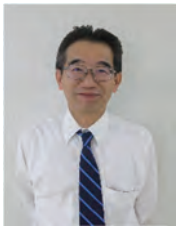
平成25年12月に設立された熊本県地域医療支援機構が、今年度は丁度5周年を迎えました。また地域医療・総合診療寄附講座としても、前身の地域医療システム学寄附講座より名称を変更して3年目になり、節目の時期を迎えました。その間、県内地域の医療機関への診療支援を行う一方で、公立玉名中央病院に寄附講座の教育拠点を設置し、専攻医や、研修医、学生などへ実践的な教育を行い、地域で働く医師の養成に努めてきました。女性医師のキャリア支援については、お留守番医師制度を創設し、子育て支援にも努めてきました。また、熊本県医師修学資金貸与の卒業生は23名となり、実際に地域で活躍される時期を迎えました。学生の地域医療教育も充実され、修学資金貸与医師に対しては、毎月のゼミを通じたキャリア支援や、夏季学生特別実習では地域体験を拡充させるなど、ますます充実した取組みがなされています。

一方、国の方では、平成30年7月25日に医療法、医師法の改正がなされ、地域間の医師偏在の解消を通じ、地域における医療提供体制を確保するための措置が強化されました。国の推計によると、2036年には熊本県の不足医師数は、229人となるそうです。二次医療圏に目を向けると、人口過疎化と医師数確保の困難さがあいまって、県内での地域間格差が拡大している状況にあります。

今年度は、これらの状況を踏まえ熊本県と連携し、地域医療ネットワーク構想やドクタープール構想などの新規事業企画への参加・協力、地域医療・総合診療実践学寄附講座の新しい教育拠点の設置に向けた取組みなど、今後の飛躍へ向けた準備に積極的に取り組んできました。これらは来年度以降、大きな成果が期待されるところです。さらに熊本県出身で県外の大学に在籍する学生に対して、県内施設での地域医療を体験する機会の提供、また育児等で家庭に入られていた女性医師の復職を支援するための制度の普及などにも取り組み、着々と成果が出ています。

引き続き、熊本県、医師会、市町村並びに地域医療関係者などの関係諸団体と連携を強化し、熊本の県内各地で望ましい地域医療が提供されるよう努力してまいりたいと存じます。今後とも、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2.　地域医療支援センター長/地域医療・総合診療実践学寄附講座特任教授あいさつ



熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター　センター長
熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座　特任教授
松　井　邦　彦

早いもので、私たちが活動を開始して丸5年が経過しましたが、県内地域の医師不足の問題に大きな改善が得られたとは、未だ言い難いようです。熊本県医師修学資金貸与生の方々の中で、来年度は一期生が卒後5年目となり、いよいよ実際に県内の地域で活躍される時期を迎えます。この間、新たな専門医制度が開始され、女性医師支援や働き方改革への対応など、更に取り組むべき課題も出てきました。しかしながら我々が行うべきことは、学生さんや医師一人一人への綿密なキャリア支援であることに変わりはなく、それが県内地域における医師不足の問題解決への近道であると考えています。

当寄附講座/センターは、運営経費の100%が熊本県からのご支援による寄附講座であり、当初の計画では5年間で区切りを迎える予定でした。しかしながら県のご厚意により、次年度以降も継続していただけることになりました。何処も厳しい財政事情の中で、大変有難いことであり、感謝に堪えません。また期待の大きさに、身がしまる思いです。

熊本県は他県と比べ、幸いにも医師数としては比較的充足しています。しかしながら、皆様ご存知の通り、医師不足の地域は県内に多く存在します。最近は新聞や全国ニュース等でも、医師不足の現状や今後の見通し等の問題が、頻回に取り上げられるようになりました。平成最後のこの5年間で、私たちは次の時代への準備を行ってきました。新たな時代を迎え今後は、実際に問題解決へ取り組む、次の段階を迎えることになります。

皆様方には、私たちへより一層のご支援をいただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

3.スタッフ一覧

◆ 熊本県地域医療支援機構（熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター）

松井　邦彦　特任教授（センター長）
総合診療科

谷口　純一　特任准教授（副センター長）
総合診療科

古賀　義規　客員研究員
（御所浦診療所所長）

坂田　正充
地域医療支援コーディネーター

柚原　敬三
地域医療支援コーディネーター

高塚　貴子
女性医師復職支援コーディネーター

髙栁　宏史　特任助教
総合診療科

後藤　理英子　特任助教
糖尿病・代謝内分泌内科

片岡 恵一郎　客員研究員

中川　実咲　事務補佐員

横手　友紀子　事務補佐員

山口　香　事務補佐員

◆ 熊本大学医学部附属病院　地域医療・総合診療実践学寄附講座

松井　邦彦　特任教授
総合診療科

佐土原　道人　特任助教
総合診療科

前田　幸佑　特任助教
総合診療科

久保　清美　事務補佐員

山並　美緒　事務補佐員

◆ 玉名教育拠点

田宮　貞宏　特任准教授
総合診療科

小山　耕太　特任助教
総合診療科

◆ 専攻医

田中	顕道	後期研修医3年目
中村	孝典	後期研修医3年目
松田	圭史	後期研修医2年目
北村	泰斗	後期研修医1年目
久保崎	順子	後期研修医1年目
空田	健一	後期研修医1年目
永田	洋介	後期研修医1年目
早川	香菜美	後期研修医1年目
平賀	円	後期研修医1年目

2 熊本県地域医療支援機構
（熊本大学医学部附属病院　地域医療支援センター）

1.活動概要

熊本県地域医療支援機構では、熊本県と、熊本県から機構業務の一部を委託された熊本大学医学部附属病院が協力して機構の運営を行っています。当機構では県内における医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に医師不足医療機関の医師確保の支援等を行っています。

平成25年12月に設立された熊本県地域医療支援機構が、今年度は丁度5周年を迎えました。一方国の方では、平成30年7月25日に医療法、医師法の改正がなされ、地域間の医師偏在の解消を通じ、地域における医療提供体制を確保するための措置が強化されました。

今年度は、県の新規事業企画への参加・協力、地域医療・総合診療実践学寄附講座の新しい教育拠点の天草設置に向けた準備など、今後の飛躍へ向け積極的に取り組みました。さらに熊本出身の県外に在籍する学生に対して地域医療を体験する機会の提供や、育児等で家庭に入った女性医師の復職を支援するためのメンター制度やお留守番医師制度の普及・啓発に努めました。女性医師支援関係ではセミナー等を開催しキャリア支援を行い、機構講演会では、地域でどのように専攻医を育てていくかといったテーマや、5年間の地域医療支援機構の取組みを振り返り、今後の在り方を考える企画などを実施しました。

【主な取り組み】

① 県内における医師不足の状況等の把握・分析
② 医師不足医療機関の支援
③ 都市部と地域の医療機関が連携し、医師が循環して勤務できるシステムの構築
④ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援
⑤ 医師に関する求人・求職などの情報発信と相談対応
⑥ 県内医療関係機関との協力関係の構築
⑦ 熊本県地域医療支援機構講演会
⑧ 女性医師キャリア支援

2.年間活動実績

月	日	行事
4	11	地域医療支援機構担当者連絡会
5	8-10	医師就学資金貸与学生面談
	16	医師就学資金貸与学生面談
	23	医師就学資金貸与学生面談
	27	メンター連絡会議
	28	キャリア支援セミナー
	30	医師就学資金貸与学生面談
6	1	地域医療支援機構講演会
	6	学生面談
	13	地域医療支援機構担当者連絡会
7	11	地域医療支援機構担当者連絡会
8	10	オープンキャンパス
9	12	地域医療支援機構担当者連絡会
	29	メンター連絡会議
		キャリア支援セミナー
10	3	地域医療支援機構担当者連絡会
11	7	地域医療支援機構担当者連絡会
		医師就学資金貸与医師面談
	14	医師就学資金貸与医師面談
	20	育児・介護支援情報会
	22	医師就学資金貸与医師面談
	28	医師就学資金貸与医師面談
12	5	地域医療支援機構担当者連絡会
		医師就学資金貸与医師面談
	12	医師就学資金貸与医師面談
	18	クローバーセミナー
	19	地域医療支援機構担当者連絡会
1	12	医学生・研修医をサポートする会セミナー
	16	地域医療支援機構担当者連絡会
	17	女性医師キャリア支援連絡会議
2	6	キャリア支援調整会議
	13	地域医療支援機構担当者連絡会
3	9-10	医療と医療者教育における 質的研究のためのプロトコル作成とSCATのセミナー・ワークショップ in 熊本大学
	19	地域医療支援機構理事会
		地域医療支援機構評議員会
		地域医療支援機構講演会
	29	熊本県知事との面談

3.活動報告

Ⅰ 県内における医師不足の状況などの把握・分析

◆ 熊本県医師就学資金貸与条例の知事指定病院等の調査

1　知事指定病院等の状況調査実施要領

【調査目的】

熊本県医師修学資金貸与医師については、「熊本県医師修学資金貸与医師の勤務等に関する要綱」第2条に規定する知事が指定する病院及び診療所（指定病院等）に一定期間勤務することになります。またその際、貸与医師は同要綱第3条及び第4条に定められた指定病院等にローテーションに基づき勤務することになります。

また、熊本県医師修学資金貸与医師については、熊本県地域医療支援機構では「熊本県医師修学資金貸与医師キャリア支援調整会議運営要領」に基づきキャリア支援調整会議を開催し、本人の希望を踏まえ、キャリア形成を支援するとともに上記ルールに沿った勤務先を協議し、大学病院各診療科や関係医療機関と調整を行うことになっています。

そのため、勤務先となる指定病院等がどのような状況か、機構としても承知しておく必要があり、また、本人が勤務する医療機関の選択における判断に資するためにも情報を把握しておく必要があります。

そこで、前回（平成28年10月）知事指定病院である36病院の医師不足の状況、教育指導体制、待遇等について調査を行いました。今回はそのデータを更新するため、調査を行うものです。

【実施主体】

熊本県地域医療支援機構

【調査対象及び調査方法】

対象：知事指定病院（32病院）、知事指定診療所（4診療所）

方法：前回の調査票配布し朱書訂正

【調査内容】

病院の医師不足状況、待遇、労働管理・福利厚生環境、教育指導体制等

【調査スケジュール】

11月　　調査票発送

11月　　取りまとめ、調査票分析

12月以降　　対象者への情報提供

2　調査結果　（２８年度調査との比較）

(1)　医師の充足状況について

①「かなり不足している」と回答した病院が平成28年度調査の13件から今回14件に増加したが、全体的には大きな変化はなく、依然として医師不足と感じている病院が多数である。

（病院数）	30年度	28年度
1.十分充足している	0	0
2.どちらかというと充足している	6	6
3.どちらともいえない	5	5
4.どちらかというと不足している	10	11
5.かなり不足している	14	13
合　計	35	35

②診療科毎では、総合診療科、内科、皮膚科、泌尿器科、産科で不足医師数の減少がある一方、神経内科、消化器科、小児科、外科、眼科、婦人科、救命救急科で、不足医師数の増加がみられた。

不足人数	30年度	28年度
外科	9名	6名
眼科	4名	2名
皮膚科	1名	4名
泌尿器科	3名	6名
産科	4名	7名
婦人科	4名	2名

不足人数	30年度	28年度
総合診療科	17名	21名
内科	14名	17名
神経内科	10名	8名
消化器科	14名	11名
小児科	11名	9名
救急救命科	10名	5名

③常勤、非常勤医師の関係では、内科と外科で常勤医師が減少する一方、非常勤医師が増加している。脳神経外科はその逆となっている。

人数	内科		外科		脳神経外科	
	30年度	28年度	30年度	28年度	30年度	28年度
常勤	46名	52名	75名	82名	17名	14名
非常勤	13.8名	0.53名	4.6名	1.8名	0.8名	5.4名

(2) 労働環境

①当直体制について、宿直、日直体制は、「すべて常勤医で対応している」病院が減少し、「応援を依頼している」病院が増加している。

病院数		30年度	28年度
宿直	常勤医で対応	8	11
	応援を依頼	20	17
日直	常勤医で対応	7	10
	応援を依頼	17	15

②救急患者の受入れについて、「１日の平均救急外来患者数」は若干減少したものの、「救急車の年間受け入れ台数」は、７９０台が今回８９８台と大きく増加している。

③院内病児保育制度について、４件から６件に増加、警備員の配置、夜間通勤時の危険対策、勤務における女性医師への配慮についても改善がみられる。

④Wi－Fi接続環境について、院内が１６件から２１件へ、住宅が５件から７件へと整備が進んできている。

(3) 待遇・福利厚生

①医師の平均総収入は、卒後３年目、６年目ともに増加している。

②取得可能な休暇・休職について大きな変化はないが、介護休業制度が増加している。

③女性医師の妊娠期間中・育休終了後の当直免除、時間外免除、短時間勤務制度等について若干の改善がみられる。

(4) 教育指導体制

①学会・研修会参加を勤務扱いする病院は、２０件から２２件へ、出張に係る旅費の補助は、２７件から３０件に増加した。

②医学生対象の実習受入れ状況について、１８件から２２件に増加し、年間受け入れ人数も１８４名から２３５名へと大幅に増加した。

(5) 診療所

診療所については4カ所とも大きな変化はないが、2カ所については1日の平均患者数が減少している。また女性医師に配慮をした制度を設けたところもある。

Ⅲ 医師不足医療機関の支援

◆ 診療・診療支援

大学病院においては、「総合診療科」の外来診療を月曜日から金曜日まで実施し、学外においては、各教員が複数の地域の医療施設にて、下表のとおり非常勤での診療支援活動を行いました。

➢ 大学病院総合診療外来

月	谷口	
火	（松井）	
水	（髙柳）	
木	谷口	
金	（松井）	（髙柳）

➢ 学外診療支援

松井	H30.4～H31.3　公立玉名中央病院（週１回）
谷口	H30.4～H30.12　水俣市総合医療センター（週１回） H30.10～H30.12　天草地域医療センター（週１回） H30.6~H31.3　公立玉名中央病院（週1、2回）
（髙柳）	H30.10～H30.12　小国公立病院（週１回） H30.4~H30.9　天草地域医療センター（週１回） H30.4~H31.3　御所浦診療所（週１回）

◆ 熊本県医師修学資金貸与医師の専門研修プログラム修了後における配置ルール作り

・修学資金貸与医師の専攻診療分野次第では、配置ルール第2グループに専攻した診療科がない場合や、資格を更新する場合の手術件数などのクリアが難しいこと等から、今後の取り扱いをどうするのか検討をしました。

方法として、①ネットワーク構想で拠点病院に派遣された場合、第2、第3グループでの玉突き勤務の容認、②第2グループに勤務可能な医療機関の追加、③第2グループの医療機関を専門研修プログラムの連携施設に追加、等の対応策について検討しました。

Ⅲ 医師が循環して勤務できるシステムの構築

◆ 熊本市内と地域の医療機関が連携して、医師が都市部と地域を循環して勤務出来るシステムの構築に向けた取組状況

➢ 地域医療・総合診療実践学寄附講座の新たな教育拠点の検討・準備

平成３０年４月から５月にかけて、県内の公的病院に対し、教育拠点の設置の意向調査を実施し、そのうえで、天草地域医療センターを選定しました。その上で「新たな教育拠点設置に向けた関係組織の所掌及びスケジュール」に沿って開設の準備を行いました。

（天草教育拠点のイメージ）

・大学→本渡に教員派遣・循環
・本渡で専門医・指導医を養成
　→天草地域内に派遣

◆ 遠隔診療・教育支援システム（テレビ会議システム、学習・診療支援オンラインツール等）の構築支援

1. テレビ会議システム

熊本県の総合診療専門医育成支援設備整備事業の計画に基づき、平成30年度は河浦病院、阿蘇医療センター、人吉医療センターの3カ所にテレビ会議システムを配備するための支援・調整を行いました。

	整備場所
H28年度	• 御所浦診療所 • 湯島へき地診療所 • そよう病院
H29年度	• 小国公立病院 • 公立多良木病院 • 上天草総合病院
H30年度	• 河浦病院 • 阿蘇医療センター • 人吉医療センター

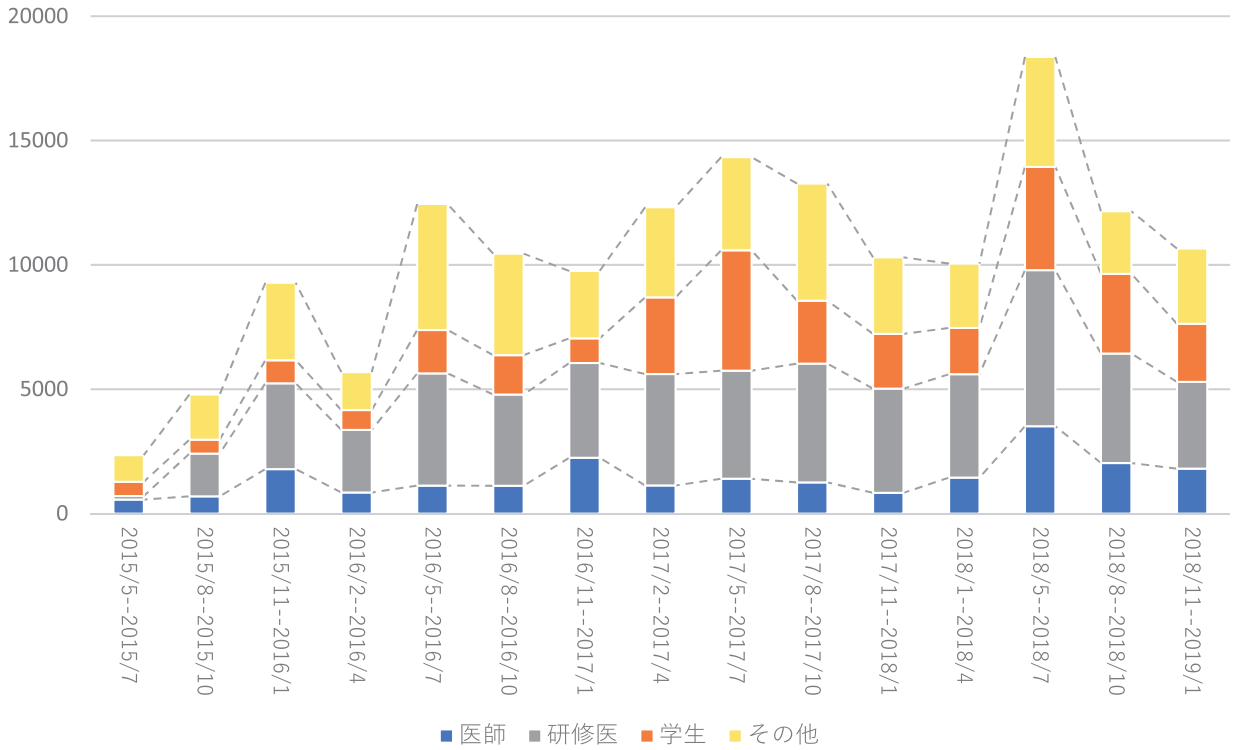
テレビ会議システムを利用した５地点での同時セミナーの様子▲

2. 学習・診療支援オンラインツール

平成30年度は、「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供するためのIDパスワードを医師修学資金貸与学生・医師、自治医科大学学生、総合診療プログラム専攻医等20名に交付し、交付者は累計で159名になりました。

また、特別臨床実習（クリクラ）を受けた104名の学生に実習医療機関での「今日の臨床サポート」及び「Procedures Consult」の医療情報を提供し活用を図りました。

利用状況（2015年3月に導入以来、3ヶ月毎に集計）▼



Ⅳ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援

◆ 熊本県医師修学資金貸与学生及び医師のキャリア形成支援について

1. 熊本県医師修学資金貸与医師のキャリア形成支援制度の実施

「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」への登録を推進しました。また、卒後３、４、5年目の修学資金貸与医師の配置調整等のため、キャリア支援調整会議を2月6日に開催しました。

➢ 第3回熊本県医師修学資金貸与医師キャリア支援調整会議
【開催日時】平成31年2月6日（金）14：00～15：00
【場　　所】熊本大学医学部附属病院　第３会議室
【内　容】
- 平成30年度キャリア支援調整スケジュールについて
- 専門研修プログラム所属先への説明について
- 卒後3年目以上の貸与医師の勤務先について
- 卒後1年目及び2年目貸与医師の臨床研修所属先について

2. 熊本県医師修学資金貸与学生・医師の面談

- 医師については卒後1～5年次医師23名を対象として、平成30年10月～12月の間で、現在のキャリアと今後のキャリア形成をどうするのか、また、来年度の勤務先をどこにするのか等についての面談を実施しました。
- 学生については1年生～6年生49名を対象として、平成30年5月～6月の間で、現在の学業の課題や生活上の問題等について面談を実施しました。6年生にはさらに初期研修の希望先病院等について面談しました。

3. 卒業生の知事との面談

平成31年3月29日10名の卒業生が知事と面談し、卒業生からは地域医療に携わる決意が述べられ、県知事からは熊本県の未来を担う医師への激励の言葉をいただきました。

◆ 地域医療研修システムについて

「地域医療研修連絡調整部会」を開催し、専門医制度が始まる中で、「地域医療の研修システム」の今後のあり方について検討しました。

➢ 平成30年度第1回地域医療研修連絡調整部会
【開催日時】平成30年9月11日　19：00～20：00
【内　容】
- 研修先病院の決定について

➢ 平成30年度第2回地域医療研修連絡調整部会
【開催日時】平成30年12月11日　19：00～20：00
【内　容】
- 研修先病院の決定について

➢ 平成30年度第3回地域医療研修連絡調整部会

【開催日時】平成31年2月22日　18：00～19：00

【内　容】

- 熊本県地域医療研修システムの見直しについて

以下の理由により、本システム及び地域医療研修連絡調整部会は廃止することになった。

① これまで本システム及び部会を通じて、幅広い視野と総合的な診療能力を身につけた医師を養成してきたが、今年度から、総合診療専門研修プログラムが開始し、より地域医療での活躍が期待される総合診療専門医の養成がなされている。

② 来年度については、旧専門医制度における後期研修３年目の医師がいるが、派遣元病院（１２病院）を対象に今後の利用見込みについて聞き取り調査を行った結果、全ての医療機関から利用予定なしの回答であった。

③ 今後地域医療研修を行う場合は、各病院における仕組み（在籍出向や地域医療機関の直接雇用）で対応可能。

◆ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度の運営

「知事が指定する病院等の具体的な指定先」、「指定病院等の区分」、「具体的な配置ローテーションルール」等に関する規程について,熊本大学医学部新1年生（修学資金貸与学生）に説明し、「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」の登録を推進しました。

自治医科大学1年生にも同様に説明し、「地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度」の登録を推進しました。さらに、登録者には「今日の臨床サポート」及び「プロシージャーズ・コンサルト」の医療情報を提供するためのIDパスワードを交付しました。

区分	年数	地域枠	一般枠	県外枠	計
後期研修/地域勤務	4年目	-	3	-	3
	3年目	4	1	-	5
臨床研修	２年目	4	4	-	8
	１年目	5	2	0	7
在学生	６年生	5	5	0	10
	５年生	4	5	0	9
	４年生	8	0	1	9
	３年生	5	3	0	8
	２年生	5	1	0	6
	１年生	5	1	1	7
合計		45	26	2	73

◀熊本県医師修学資金貸与人数一覧
（平成31年1月現在）

在学生は50名、初期研修医は15名、後期研修又は地域で勤務する医師は8名、男女比は全体で6：4

◆ 総合診療専門医及び指導医の養成、確保

1.　日本専門医機構への総合診療専門医研修プログラム認定申請

平成30年8月30日付で、同機構に「熊本大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム」の変更申請を行い、平成31年3月に承認されました。県内では熊本大学病院の他、5医療機関（熊本赤十字病院、くわみず病院、済生会熊本病院、国立医療センター、人吉医療センター）でプログラムが承認されています。

2.　総合診療専門医研修プログラムの周知

県内6つのプログラムについて、地域医療支援機構ホームページに掲載し、その周知を図りました。

また、平成30年6月15，16日に開催された日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（津市で開催）で、新専門医制度を見込んだ総合診療専門医研修プログラムの紹介をし、さらに、熊本大学医学部附属病院専門研修説明会（6月10日）、熊大総診プログラム説明会（9月7日）、日本プライマリ・ケア連合学会九州支部総会（平成31年2月9日 ～ 10日）、第16回日本病院総合診療医学会学術総会（平成31年2月14日～15日）、においても同様に周知しました。

3. 総合診療専門医の熊本県内プログラムへの登録

県内6つの総合診療専門医研修プログラムのうち、熊本赤十字病院に1名が登録されました。

◆ 初期臨床研修及び新専門医制度への対応

1. 初期臨床研修関係

医師修学資金貸与学生のマッチングについてアドバイスをするなど支援を行い、卒業予定の10名全員が県内の研修病院にマッチングしました。また、平成30年6月10日「熊本大学医学部附属病院群卒後臨床研修プログラム説明会」に参加し、学生の募集に努めました。

2. 新専門医制度

地域医療支援機構理事の松井邦彦熊本大学医学部附属病院域医療支援センター長が平成30年9月6日開催の熊本県専門研修プログラムに関する協議会の委員として出席し、新専門医制度の地域医療への配慮を促しました。

◆ 熊本大学医学部、同大学医学部附属病院総合臨床研修センター、同病院総合診療科及び地域医療・総合診療実践学寄附講座との連携

- 地域医療・総合診療実践学寄附講座とは医師修学資金貸与学生主体の地域医療ゼミや夏季地域医療特別実習をはじめ各種セミナー等の開催に協力・支援し、一体となった取り組みに努めました。
- 医学部をはじめ関係組織との連携に努め、学生等の地域医療研修等の支援を行いました。
- 熊本県医療勤務環境改善支援センター運営協議会に機構理事及びコーディネーターがオブザーバーとして参加、逆に女性医師キャリア支援連絡協議会に勤務環境改善支援センターから参加し相互に連携を図った。また、医療勤務環境改善センターと協議の上、そよう病院におけるファミリーサポートセンターの企画に協力しました。

◆ 熊本県医療行政、熊本県へき地医療支援機構との連携

- 熊本県医療政策課との連絡会を月に1～2回実施しました。
- へき地医療支援機構専任担当官と週に1回協議をしました。

医師に関する求人・求職などの情報の発信と相談対応

◆ 熊本県地域医療支援機構のホームページによる情報発信・相談対応

ホームページに相談コーナーを設け窓口を設置しています。また地域の医療機関で働いている医師就学資金貸与医師の活動レポートを登載したり、イベントの告知やその報告なども行っています。

◆ 熊本県地域医療支援機構の専任医師等による相談対応

全国会議等で熊本県出身医師等からの相談を受けるとともに、地域医療ゼミ等の機会に医学生等からの相談に対応しました。また、県内の医療機関や自治体などに対しても相談対応をしました。

県外医師からの相談等	7件
県内の地域医療機関からの相談等	19件
地域医療ゼミの開催	11回

◆ 全国会議等での情報発信

全国会議等で、熊本県支援機構のチラシを配布するなど、熊本県の状況を説明し、求人活動を行いました。特に、6月16日（土）、17日（日）に開催された第9回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会においては、県内の総合診療プログラムの紹介と併せＰＲ活動や求人活動を実施しました。

◆ メールマガジンによる情報発信

以下の3つのことを目的とし、メールマガジンの発行をしました。

① 熊本県内の医療関係者に対し、機構の取り組みを広く周知することで理解と協力を求める

② 県外在住の医療関係者に対し、熊本県内における地域医療の実情を知ってもらうことで、県内の地域医療への参加を促す

③ 熊本県内で地域医療に携わる医師及び医療関係者に対し、取り組みの状況と今後の方向性を示すことで、孤立感の緩和とモチベーションの向上を図る

＜対象＞

- 熊本県と縁がある県外在住の医師及び医療関係者、県内の病院・医師
- 県内自治体（市町村）の医療担当部署、熊本県及び郡市医師会
- 熊本県医師修学資金貸与学生及び医師
- 熊本出身自治医科大生及び熊本在住の自治医科大卒医師等
- 講演会等でのアンケートでメールマガジンの受け取りを希望した医療関係者

＜発信状況＞

平成30年4月から約680名の登録者に対し9回、地域医療支援機構の取り組みなどを発信しました。

2018/5/24	Vol.32	熊本県地域医療支援機構講演会開催のお知らせ
2018/5/16	Vol.33	肥後ふるさと医学生実習支援事業のお知らせ
2018/5/17	Vol.34	キャリア支援セミナー開催のお知らせ
2018/5/18	Vol.35	第15回総合診療グランドラウンド開催のお知らせ
2018/8/21	Vol.36	熊本大学総合診療に関する研修プログラム説明会開催のお知らせ
2018/8/21	Vol.37	メンター・メンティー懇談会開催のお知らせ
2018/10/18	Vol.38	熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー開催のお知らせ
2019/1/18	Vol.39	「医療と医療者教育における質的研究の実施と論文執筆を目指す人のためのプロトコル作成とSCAT実践セミナー&ワークショップ　in Kumamoto」開催のお知らせ
2019/2/26	Vol.40	熊本県地域医療支援機構講演会開催のお知らせ

◆ 熊本県地域医療支援機構リーフレットの配布

機構リーフレットを500部更新し、関係機関に配布するとともに講演会等の出席者に配布して機構の取組みについて周知啓発をしました。

◆ 熊本県地域臨床実習支援制度の構築

1. 熊本県地域医療臨床実習支援事業

県外にいる熊本県出身の医学生や，将来熊本県で従事することを考えている医学生等が、熊本県における地域医療の現状を学ぶことを支援することにより、将来の医師偏在化の是正や医師確保につなげることを目的として地域医療臨床実習支援制度（肥後ふるさと実習支援事業）を実施し、山梨大学、自治医科大学の4名の医学生が、小国公立病院、荒尾市民病院、公立玉名中央病院、熊本労災病院でそれぞれ実習に参加しました。

【募集対象者・募集人数】

募集対象者：熊本県外の大学に在学する地域医療に関心を有する医学部学生（3年生以上）

募集人数：5名以内

【事業実施期間】平成30年4月から平成31年2月まで

【実習期間及び実習内容】

実習期間：原則として１週間以内（最低でも2日以上）

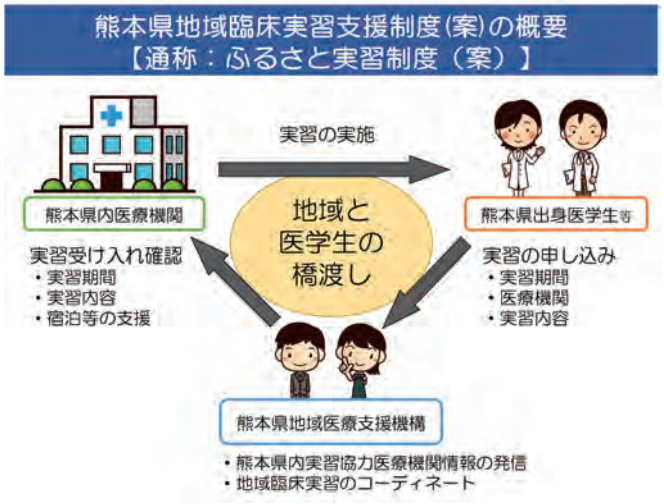
実習内容：診療参加、診療見学等

【実習先】知事指定病院等のうち29の医療機関（表）

【実習結果報告】実習希望者は、実習終了後２週間以内に報告書を機構に提出

実 習 先 一 覧 ▼

- 荒尾市民病院
- 公立玉名中央病院
- 山鹿市民医療センター
- 熊本再春荘病院
- 熊本労災病院
- 熊本総合病院
- 水俣市立総合医療センター
- 人吉医療センター
- 天草地域医療センター
- 上天草総合病院
- 河浦病院
- 熊本県立こころの医療センター
- 熊本南病院
- 熊本県こども総合療育センター
- 宇城市民病院
- 済生会みすみ病院
- 玉名地域保健医療センター
- 和水町立病院
- 菊池郡市医師会立病院
- 天草中央総合病院
- 阿蘇医療センター
- 小国公立病院
- そよう病院
- 公立多良木病院
- 菊池郡市医師会立病院
- 菊池病院
- 八代市立病院
- 牛深市民病院
- 湯島へき地診療所
- 御所浦診療所



◆ 客員研究員報告

■ 小国公立病院　副院長　片岡　恵一郎

松井先生・谷口先生にご縁をいただき、2018年度より、地域医療支援センターの客員研究員として、教室に出入りさせていただいております。

小国郷は、林業で栄えた町で、黒川温泉・杖立温泉等々の温泉が沢山あり、自然豊かで食べ物も美味しく、観光客も多い、熊本の中でも比較的土地の力がある「地域」です。しかし地方の町の多分にもれず、人口減少の真っ只中で、日本の20年程先行く人口分布になっているため、少子高齢化による医療・介護の課題は山積みです。都市部に先んじてこの問題を現場で肌で感じ、対応していくスキルは、今後の医療・介護業界で標準的に必要となり得るものであるはずです。

小国郷のマンパワーだけでは解決できない地方の問題を、熊本大学や熊本県のお力を借りて解決していきたいと考え、月に1回ですが、地域医療支援センターのミーティングに参加させていただいております。そして、実際に小国郷の地域医療の中で地域医療支援機構/センターのご支援が実を結んでおります。

医学部の学生さんや研修医の先生等の若い世代に、地域医療の醍醐味・やり甲斐を伝え、医師のあり方としての地域医療という選択の間口を広げていきたいと思います。

■ 御所浦診療所　所長　古賀　義規

3週間のクリクラの医学生の受入に加えて、今年度は専攻医にも3か月間来ていただきました。スタッフには刺激になり、日々の業務を振り返る良い機会になっており、患者様や地域の方々にも少しずつ受け入れに慣れて来て頂いていると感じています。

今後も、より多くの医学生や研修医に離島・へき地での地域医療に理解を深めてもらい、地域医療にやりがいをもって取り組める人材育成の一助となりたいと思います。また家庭医療を実践できる県内へき地公的診療所の緩やかなネットワーク作りにも関わっていきたいと考えています。

Ⅵ 県内医療関係機関との協力関係の構築

◆ 県内医療機関に対する助言などの支援、医療機関との連携、調整

1. 年間報告書を作成し、市町村・医療機関等に配布したり、 機構リーフレットを増刷し、関係者等に配布しました。
2. 地域臨床実習支援制度への協力を知事指定の病院に打診し、29病院からの協力を得ました。そのうち4病院から実際に実習を受け入れてもらいました。
3. 前回（平成28年10月）知事指定病院である36病院の医師不足の状況、教育指導体制、待遇等について調査を行いました。今回はそのデータを更新するため、再度調査を行いました。（P.5参照）

◆ 評議員会議の開催

地域の医療関係者の合意のもと熊本県地域医療支援機構の業務を進めていくために、地域の医療機関の代表者などで構成される評議員会議を開催しました。

➢ 第7回熊本県地域医療支援機構評議員会

【日　時】平成30年10月9日　15：00～16：30

【協議事項】

（1）医療法及び医師法の一部を改正する法律について
（2）熊本県ドクタープール制度の新たな構築について
（3）熊本県医師修学資金貸与医師のキャリア形成支援について
①医師修学資金制度の全国的な動向について
②熊本県医師修学資金貸与医師の配置調整について

【その他】

（1）熊本大学医学部附属病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の第２教育拠点について
（2）平成30年度夏季地域医療特別実習について

➢ 第8回熊本県地域医療支援機構評議員会

【日　時】平成31年3月19日　16：00～17：00

【協議事項】

（1）平成30年度（2018年度）事業実績について
（2）平成31年度（2019年度）事業計画について

【報告事項】

（1）熊本県医師修学資金貸与医師キャリア支援調整会議の結果について
（2）医療法・医師法改正に伴う地域医療対策協議会のあり方等について
（3）医療法・医師法改正に基づく医師確保計画等について
（4）熊本県ドクタープール制度の新たな構築について
（5）熊本県地域医療連携ネットワーク構想について
（6）平成31年度（2019年度）における寄附講座について
（7） 2020年度以降における熊本県医師修学資金「一般枠」の取扱いについて
（8） 女性医師支援の取組みについて
（9）平成30年度（2018年度）及び31年度（2019年度）夏季地域医療特別実習について

【その他】

（1）地域医療・総合診療実践学寄附講座の天草教育拠点について

◆ 理事会など

1. 地域医療支援機構理事会の開催（1回）

熊大病院管理棟第3会議室で地域医療支援機構理事会を下記の通り開催しました。

➢ 第10回熊本県地域医療支援機構理事会

【日　時】平成30年3月19日（月）15：00～15：45

【協議事項】

（1）平成30年度（2018年度）事業実績について

（2） 平成31年度（2019年度）事業計画について

（3）熊本県医師修学資金貸与医師キャリア支援調整会議の結果について

【報告事項】

（1）医療法・医師法改正に伴う地域医療対策協議会のあり方等について

（2）医療法・医師法改正に基づく医師確保計画等について

（3）熊本県ドクタープール制度の新たな構築について

（4）熊本県地域医療連携ネットワーク構想について

（5）平成31年度（2019年度）における寄附講座について

（6）2020年度以降における熊本県医師修学資金「一般枠」の取扱いについて

（7）女性医師支援の取組みについて

（8）平成30年度（2018年度）及び31年度（2019年度）夏季地域医療特別実習について

【その他】

熊本大学医学部附属病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の
教育拠点について

理事会の様子▶

2. 県医療行政との連携（地域医療支援機構担当者連絡会）

熊本県医療政策課の担当者と地域医療支援機構の職員との連絡会を月1～2回開催し、事業の進め方や政策推進について協議しました。

熊本県地域医療支援機構講演会

2018年6月1日金曜日　19:00～20:45
平成30年度熊本県地域医療支援機構講演会
「地域で育てる専門医」

平成30年6月1日に、熊本総合病院のホールで熊本県地域医療支援機構講演会を開催しました。

平成30年度から新専門医制度がスタートし、熊本県内でも8医療機関で34個のプログラムが認定され、102名の専攻医が登録し、それぞれのプログラムに基づき専門研修が開始されています。この新専門医制度の発足にあたって議論されたテーマの一つが地域医療研修の在り方であり、専門的な知識はもとより地域医療マインドをどう育てていくかが大きな課題となっています。そこで今回は、これまで専門医を育ててきた各地の医療機関の取り組みについて発表の場を設け、新専門医制度において今後どのように専攻医を育てていくのか共に考える機会とするため、講演会を開催しました。

開会のあいさつ
熊本県地域医療支援機構理事
熊本大学医学部附属病院
松井 邦彦　特任教授

来賓のあいさつ
八代市医師会会長
西　文明　会長

まず「専門医療実践学寄附講座活動報告」を、熊本大学医学部附属病院 専門医療実践学寄附講座の井上秀樹 特任准教授からご講演いただきました。

その後、「各医療機関の専門医研修の取組み」について、受け入れ病院の立場から、熊本総合病院の堀野敬 副院長より、更に受け入れ診療科の立場から、人吉医療センター 産婦人科の大竹秀幸 副院長、山鹿市民医療センター 外科の別府透 副院長よりご講演いただきました。

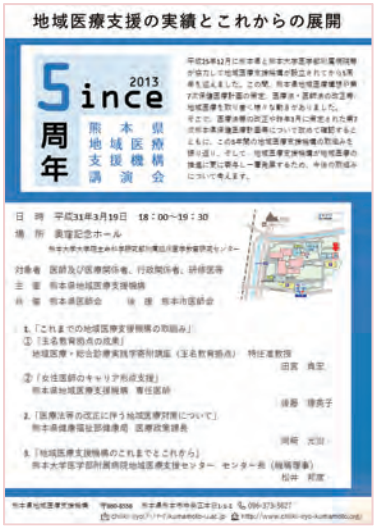
1、専門医療実践学寄附講座活動報告
熊本大学医学部附属病院　専門医療実践学寄附講座
井上 秀樹　特任准教授

2、各医療機関の専門医研修の取組み ～受け入れ病院の立場から～
地域医療機能推進機構 熊本総合病院
堀野　敬　副院長

3、各医療機関の専門医研修の取組み ～受け入れ診療科の立場から～
人吉医療センター　　産婦人科
大竹　秀幸　副院長

4、各医療機関の専門医研修の取組み ～受け入れ診療科の立場から～
山鹿市民医療センター　外科
別府　透　副院長

閉会のあいさつ
熊本県地域医療支援機構　地域医療支援センター　副センター長
谷口　純一 特任准教授



2019年3月19日火曜　18:00～19:30
平成30年度熊本県地域医療支援機構講演会
「地域医療支援の実績とこれからの展開」

平成31年3月19日、奥窪記念ホールにて平成30年度2回目の熊本県地域医療支援機構講演会を開催しました。

平成25年12月に熊本県と熊本大学医学部附属病院等が協力して地域医療支援機構が設立されてから5周年を迎えました。この間、熊本県地域医療構想や第7次保健医療計画の策定、医療法・医師法の改正等、地域医療を取り巻く様々な動きがありました。

そこで、医療法等の改正や昨年3月に策定された第7次熊本県保健医療計画等について改めて確認するとともに、この5年間の地域医療支援機構の取組みを振り返り、そして、地域医療支援機構が地域医療の推進に更に寄与し一層発展する為、講演会を開催いたしました。

開会のあいさつ
熊本大学医学部付属病院　院長
熊本県地域医療支援機構
谷原　秀信　機構理事長

来賓のあいさつ
熊本県医師会
水足　秀一郎　副会長

1、これまでの地域医療支援機構の取り組み
①「玉名教育拠点の成果」
地域医療・総合診療実践学寄附講座（玉名教育拠点）
田宮　貞宏　特任准教授

②「女性医師のキャリ形成支援」
熊本県地域医療支援機構　専任医師
後藤　理英子　特任助教

2、医療法などの改正に伴う地域医療対策について
熊本県健康福祉部健康局医療政策課
岡崎　光治　課長

3、地域医療支援機構のこれまでとこれから
熊本県地域医療支援機構　理事
熊本大学医学部付属病院　地域医療支援センター
松井　邦彦　センター長

閉会のあいさつ
熊本県地域医療支援機構理事
熊本県健康福祉部　迫田 芳生　医監

女性医師キャリア支援

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、①復職支援　②短時間勤務　③育児支援　④メンター制度　⑤セミナー（啓発活動）を5つの柱にキャリア支援を進めることが重要と考え活動しています。

- マタニティ白衣の貸出
- お留守番医師制度
- メンター制度、メンター連絡会議
- キャリア支援セミナー
- クローバーセミナー
- 学童保育のニーズ調査
- 広報活動（ホームページ、テレビ、雑誌掲載、チラシの作成等）
- 学会・講演会などでの発表、情報交換
- 学生への啓発活動として、「医学生・研修医等をサポートするための会」開催や、1学年・4学年への講義

◆ 相談件数

平成30年度（2018年4月1日から2019年1月31日まで）は総計64名から相談や制度のお問い合わせがありました。うち26名が男性で、「支援制度について」「求人の問い合わせ」の問い合わせが多く、38名が女性で、「働くこと、働き方について」の相談が多くありました。

特に女性医師7名からの相談は、自身の復職やキャリア継続に繋がりました。

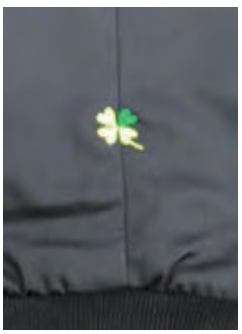
復職・キャリア支援に繋がった相談　▼

40代	女性	お留守番医師制度（週1回/1日3.5時間勤務）
40代	女性	お留守番医師制度（相談対応中）
40代	女性	お留守番医師制度（週3回/1日3.5時間勤務）
30代	女性	お留守番医師制度（週2回/1日4時間勤務）
40代	女性	求人情報の提供
30代	女性	求人情報の提供
30代	女性	メンターとのマッチング
30代	女性	メンターとのマッチング

相談の総内訳（延べ相談数）
2018年4月1日～2019年2月28日　▼

お留守番医師制度について	40
働くこと働き方についての相談	26
求人の問い合わせ	22
保育施設について	15
支援制度についての問い合わせ	15
ネットワークづくり	14
復職相談	8
メンター制度について	6
同僚・医局の医師について	5
子育てについて	3
社会保障等について	0
マタニティ白衣・パンツについて	0

◆ マタニティ白衣、マタニティパンツの貸し出し



平成30年度からマタニティ白衣に加えて、マタニティパンツの貸出も始めました。

今年度は育児休暇中のご相談が多かったため、貸し出しはありませんでした。

妊娠中から気軽にご相談できる雰囲気づくりに努め、是非多くの医師にご利用いただきたいと考えています。

◆ お留守番医師制度

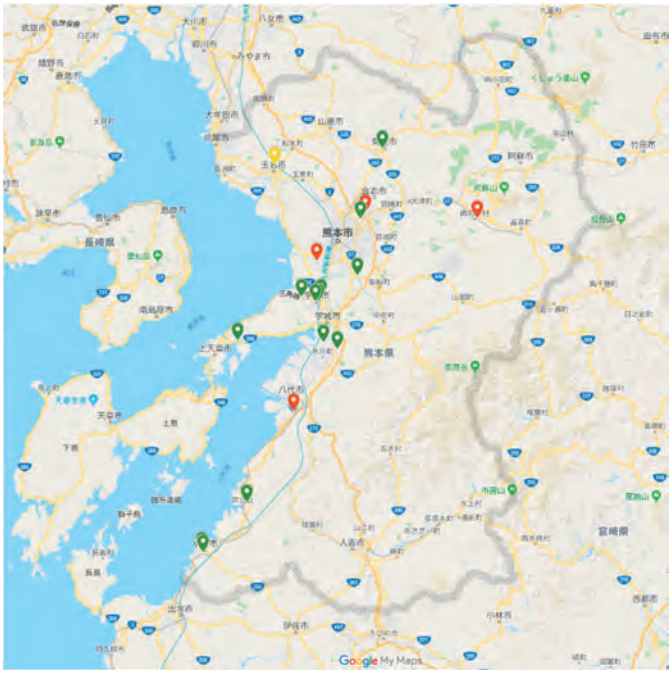
「お留守番医師制度」では、家庭との両立や自身の健康などに不安を抱える方にも復職しやすい環境の協力機関（現在15医療機関）と連携しています。復職希望医師にとっては週1回（場合によっては月1回も可）からの復職が可能で、在宅医療を開始したい医療機関にとっては代診医師の確保につながり、地域住民にとっては、かかりつけ医の訪問診療を受けることが可能になるwin-win-winの互助システムです。熊本県女性医師キャリア支援センターの復職コーディネーターが復職希望者の体験申し込みを受けて、在宅医療を開始したいドクターとつなぎ、体験日を決めます。体験がうまくいけば、当事者同士で3か月更新の雇用契約を結びます。

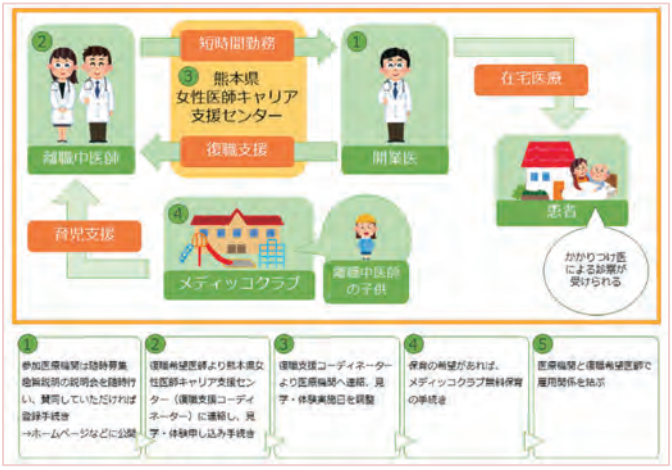
この制度で勤務中には、熊本市医師会保育所「メディッコクラブ」が無料で利用できます。

今年度は、在宅医療を担う各郡市医師会の会員の方々にも、お留守番医師制度システムについて理解していただく為、各郡市医師会へ説明会受入について調査を行い、希望のあった水俣市芦北郡市医師会、菊池郡市医師会、宇土地区医師会において説明会を開催しました。

さらに、説明を個別に希望された9つの医療機関へ直接説明にうかがいました。今年度は3名の医師がこの制度を利用し復職されました。その他、昨年度からの継続2名　体験のみ1名合わせて6名がお留守番医師制度を利用中です。

平成28年度黄（1）平成29年度赤（4）平成30年度緑（14）





お留守番医師制度に加入している医療機関
（2019年2月28日時点）▼

熊本市東区	平山ハートクリニック
熊本市南区	土井内科胃腸科医院
熊本市南区	御幸病院
熊本市北区	清藤クリニック
熊本市北区	なかむらファミリークリニック
阿蘇市	阿蘇立野病院
菊池市	宮本内科クリニック
荒尾市	西原クリニック
玉名市	ひがし成人・循環器内科クリニック
玉名市	河野医院
上益城郡	益城なかぞのクリニック
上益城郡	谷田病院
上益城郡	山地外科胃腸科医院
宇土市	宇土中央クリニック
水俣市	山田クリニック
宇城市	済生会みすみ病院

◆ メンター制度

メンター制度とは、キャリアについて、ワークライフバランスについて、先輩に悩みを聞いてもらい、一緒にキャリアやライフの目標設定を考えてみる取り組みです。気軽に取り組めるよう、メンター・メンティの関係性は1年間限定とし、希望があればさらに1年間延ばすこととしています。

メンターとして現在26人の男女医師が登録しており、メンティとして現在2名の女性医師が登録しています。メンター自身のスキルアップを目的に、今年度は2回「メンター連絡会議」を開催しました。

➢ 5月27日

議題：「地域で働く女性医師懇談会」

講師：地域医療支援センター　後藤 理英子

自治医科大学、熊本大学医学部地域枠出身者を中心に、地域で活躍する女性医師にご出席いただきました。秋田大学医学部総合地域医療推進学講座　准教授　蓮沼直子先生にもご参加いただき、キャリアについての悩みや各地の育児支援などの情報交換を行いました。

➢ 9月29日　（メンター・メンティ情報交換会）

議題：「キャリアや子育てについて気軽に相談してみよう」

講師：地域医療支援センター　後藤理英子先生

医学部学生や若手医師、ママさんドクターが気軽に相談・情報交換できる機会を設ける為、ワールドカフェ形式で開催しました。①両立（介護・育児）②キャリアについて、各グループで意見を出し合い発表していただきました。グループワークを通して色々な意見、体験を聞く機会となり、医学部学生には今後を考えるきっかけになったようでした。

◆ クローバーセミナー

2018年12月18日火曜日　19:00～21:00

熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー

「医療人の働き方改革」

平成30年12月18日、熊本大学医学部附属病院　山崎記念館において、熊本県地域医療支援機構と熊本大学医学部附属病院男女共同参画推進委員会主催で、熊本県医療人キャリアサポートクローバーセミナー「医療人の働き方改革」が開催されました。熊本県医師会と熊本市医師会にも共催いただきました。

医師、看護師、医療関係者、事務職員など54名の方々にご参加いただきました。

開催のあいさつ
熊本県地域医療支援機構理長
谷原　秀信　先生

開催のあいさつ
熊本大学医学部付属病院
男女共同参画推進委員会
山下　康行　先生

1、「クローバーの会活動報告」
国立病院機構熊本医療センター院長　熊本県医師会男女共同参画担当理事
クローバーの会会員
高橋　毅　先生
熊本県内有床病院（214医療機関）に勤務する医師を対象に本年11月に実施した、「医師の働き方改革」のアンケート結果報告がありました。

2、「医局員が増える！平等感のある働き方改革」
帝京大学医学部　皮膚科学講座　助教
石川　武子　先生
帝京大学皮膚科学講座の医局をあげての様々な取り組みをご紹介いただきました。

3、「女性医師支援から働き方改革へ」
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科　地域医療人材育成講座　教授
片岡　仁美　先生
医師の働き方改革の方向性と岡山大学での取り組みについてご講演いただきました。

4、事例報告「医療人の働き方改革」
1）熊本大学医学部附属病院　産科婦人科　助教　伊藤史子　先生
2）熊本大学医学部附属病院　消化器外科　特任講師　馬場　祥史　先生

伊藤先生からは熊本大学産科婦人科学教室における働き方改革について、馬場先生からは外科の視点から働き方改革についてお話しいただきました。

閉会のあいさつ
国立病院機構熊本医療センター院長　熊本県医師会男女共同参画担当理事
クローバーの会会員
高橋　毅　先生

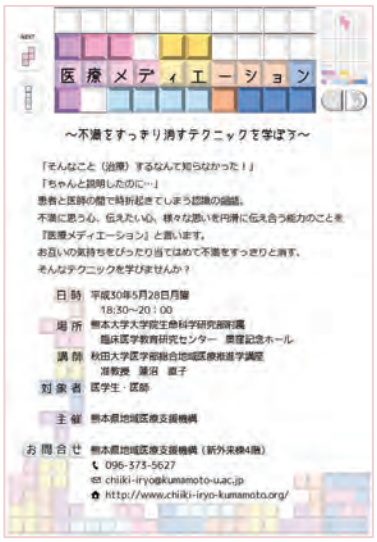
➢ クローバーセミナーのアンケート結果

- チーム医療（複数主治医制）→タスクシフティング→正の連鎖となり素晴らしい。
- 非常にためになりました。理想的な医局のモデルとしてどんどん発信して頂きたい。このお話を是非目標に、自分の医局変えていければと思いました。
- 医療人の積極的な取り組みが重要と感じた。
- 男女共に働き方・生き方を考える機会となった。

◆ その他セミナー

主催　平成30年度キャリア支援セミナー「医療メディエーション」

2018年5月28日月曜日　18:30～20:00



秋田大学医学部総合地域医療推進学講座
准教授　蓮沼　直子　先生

5月28日に平成30年度キャリア支援セミナーを開催し、秋田大学医学部総合地域医療推進学講座准教授の蓮沼直子先生に「医療メディエーション」を教えていただきました。

講演では、医療メディエーションの基本から医療メディエーターの役割など、人と対話する時に重要なことを分かり安く説明していただきました。また、シナリオを使ってのワーク活動では立場を自覚した会話のやり取りに皆さん苦戦しているようでした。

「対話の仕方のヒントを得ることができた」「研修の時にも学んだ内容を思い浮かべて行動しようと思います」など実践的でとてもためになったとたくさんの感想をいただきました。

主催　メンター・メンティ情報交換会

「先輩たちはどうしてる？～キャリアや子育てについて気軽に相談してみよう～」

2018年9月29日土曜日　14:00～16:00

医師12名、医学生8名、関係者計23名が参加しました。気軽に相談できる機会を設けるため、ワールドカフェ形式で情報交換を行いました。各グループで①両立（育児・介護）②キャリアについて意見交換を行い、盛り上がりました。

～感想～（一部抜粋）

≪学生≫

・実際に女性医師の方々とお会いして話を聞く機会はあまりないので、様々な働き方について聞けて良かった。

≪医師≫

・女性医師として働いていく上で不安を自分と同じように持っていることが分かった。また、男性医師も同じように忙しいと思っている話が聞けて良かった。

主催　平成30年度キャリア支援セミナー「医療と医療者教育における質的研究のためのプロトコル作成とSCATのセミナー・ワークショップin熊本大学」

2019年3月9日土曜日　9:00～19:00　　2019年3月9日土曜日　9:00～19:00

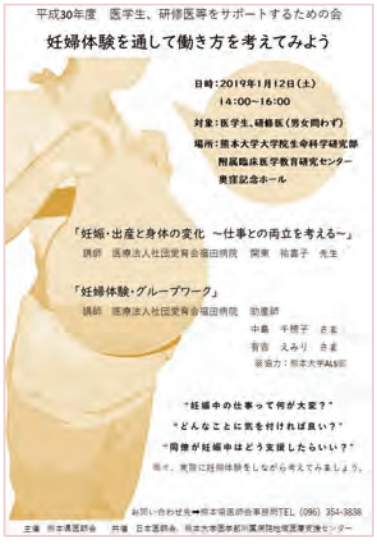
講師：名古屋大学大学院発達科学研究科
教授　大谷　尚　先生

副講師：一宮研伸大学看護学部看護学科
助教　肥田　武　先生

熊本では初の開催で、質的研究で論文執筆を目指す23名が参加しました。2日間じっくりと質的研究の方法論を学んでプロトコルを作成し、実際にSCATによる分析を経験しました。熊本県における医療と医療者教育に関する質的研究の芽が息吹きました。

共催　医学生・研修医をサポートする会セミナー「妊婦体験を通して働き方を考えてみよう」

2019年1月12日土曜日　14:00～16:00



医療法人社団愛育会福田病院
医師　　関東　祐喜子　先生

助産師　中島　千穂子　先生
助産師　有吉　えみり　先生
協力：熊本大学ALS部

1月12日、熊本県医師会主催で『平成30年度医学生・研修医をサポートする会』が開催されました。

本年度は「妊婦体験を通して働き方を考えてみよう」をテーマとしました。福田病院の関東祐喜子先生に「妊娠・出産と身体の変化～仕事との両立を考える」を題にご講演いただき、その後福田病院の助産師である中島千穂子氏　有吉えみり氏、熊本大学ALS部の協力のもと、妊婦体験及びグループワークをしました。妊婦体験ではマタニティスーツを装着し、血圧測定や心臓マッサージ、階段の上り下りやマタニティヨガなどを体験しました。

◆ 女性医師キャリア支援センターによるアンケート調査

■ 平成30年　熊本県医師キャリア支援に関するアンケート調査の結果

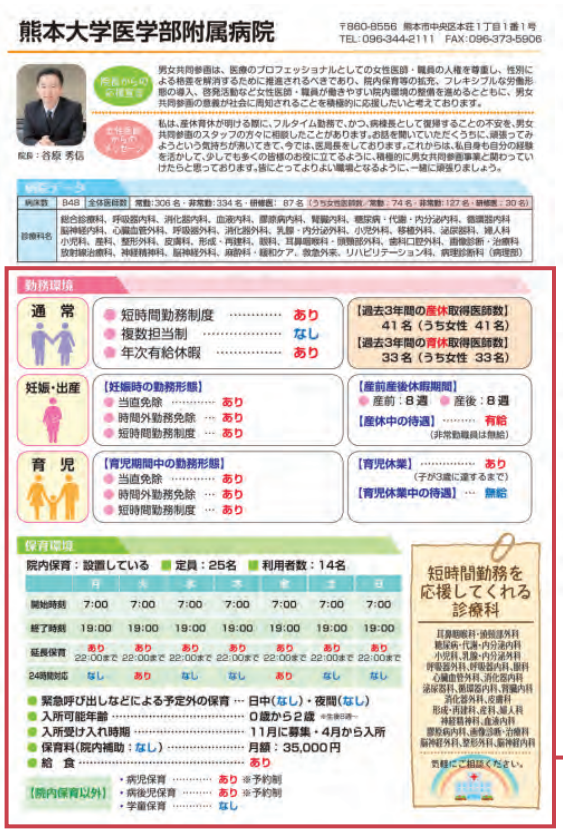
冊子CLOVRは熊本県医師キャリア支援に関するアンケート調査の結果を見やすくまとめ、平成26年から隔年で作成しています。今回の第3版では全有床病院を対象として調査を行い、79病院よりご回答いただきました。ご協力誠にありがとうございました。

初版時に比べ、短時間勤務制度や当直免除、院内保育園、病児病後児保育の充実など、女性医師が働きやすい勤務環境の導入に多くの病院が取り組まれています。

冊子は医学生の授業や女性医師支援関連のセミナー、個別相談の際などに配布しました。また、熊本県女性医師キャリア支援センターのホームページで公開し、情報をいつでも得られるようにしています。

全国の傾向と同じく、熊本県でも女性医師の割合は18%と増加し、そのうち40歳未満では30%を超えています。一方で県内の40歳未満の医師の数は平成8年に比べ636人減っています。今回の調査で研修医に占める女性の割合は34%であり、今後の地域医療を支えるうえで、医師のキャリア支援は益々重要となるでしょう。

女性医師の活躍は、男性医師を含めたすべての医師の負担軽減にもつながります。男性も女性もすべての医師がライフもワークも充実できるよう活動を進めて参りたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



短時間正規雇用制度		56	9% 増
複数担当制		38	8% 増
年次有給休暇		77	
妊娠時の勤務形態	当直免除	72	1% 増
	時間外勤務免除	69	1% 増
	短時間勤務制度	63	5% 増
産休中の待遇		有給 24	
育児休業		75	
育児休業中の待遇		有給 3	
育児期間中の勤務形態	当直免除	76	8% 増
	時間外勤務免除	76	6% 増
	短時間勤務制度	76	6% 増
院内保育園		42	8% 増 (53.2%)
病児保育	基幹型臨床研修病院で3件増	10	
病後児保育	基幹型臨床研修病院で3件増	12	
学童保育		6	4% 増 (7.6%)
過去3年間の産休取得医師数		105人	20人増
過去3年間の育休取得医師数		90人	23人増

第1版との比較